

令和5年度 学童クラブ事業年間活動報告書

京都市向島南児童館

	活動の基本目標（指針）	主な取組名	成果と課題
生活援助機能	安全・衛生の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>館内生活並びに施設使用の決まりやマナーの指導。遊具の安全な使い方などの指導。</li> <li>登館指導・帰宅指導</li> <li>避難訓練、災害時緊急対応指導 他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童館の施設や用具を利用するための諸注意、決まりやルールの定着、マナーについて その都度 また機会を見ておわりの会などで指導を継続してきた。また当番活動の一つである自分たちでの片付け等の点検行動を通して道具の片付け、整理が身についてきている。引き続き指導・取り組みを継続していく。</li> <li>4月～5月にかけて新1年生への登館指導（学校からの）、集団帰宅にあたり、交通並びに不審者に対応できるよう安全指導をしてきた。年度末のアンケートの中でも「安全の話聞いている」と少しづつでも意識がされてきている。安全、マナーの面での一層の向上を目指し働きかけを行っている。</li> <li>地震・水害・火災・不審者等想定して避難訓練を実施してきた。また台風時の注意等 ビデオ映像や画像、話等使いながらできるだけわかりやすいよう伝えてきた。「助かる」ための知識・行動を折に触れ機会をとらえて伝えていく。</li> </ul>
	健康の管理・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗い、うがい等保健衛生週間指導</li> <li>トイレの使い方指導</li> <li>感染症予防の指導（検温・手洗いの励行）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来から登館時（帰館）と昼食・おやつ時間前に手洗いの習慣化（手洗いの方法の習熟徹底）に重点的な指導を行ってきた。ともすれば手洗いなど適当に済まされることもあるので定期的に、手洗い確認、指導を取り入れている。現在手拭きはペーパータオル使用を衛生的な観点から続けているが ペーパーの大量消費に関して代理案が確定できず 引き続き検討が必要である。</li> <li>トイレ指導は、使用マナー（スリッパ着脱、水洗等）は継続して指導している。また失敗したケースもそれぞれに合わせて事後対応を行いサポートしている。</li> <li>手洗いの指導と共に主に「防災と安全の日」に食中毒についての情報を伝え、注意喚起と、日頃の生活習慣を整えていくよう指導している。</li> </ul>
	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ習慣指導</li> <li>整理整頓後片付けの習慣指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの「あ」を当館の生活のめあてとしている。「あいさつ」「あんぜん」「あかたづけ」を児童に呼びかけ、指導の目安としてきた。上級生からの良い意味での影響も含め 少しづつ定着してきている。今後も根気よく指導を続けていく。</li> </ul>
	社会生活技術の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコとクリーンの日（施設の清掃・片付け・エコロジーの知識等）</li> <li>作って食べようクッキング教室</li> <li>作って遊ぼうクラブ教室</li> <li>当番制による整理整頓・片付け点検の活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回、子ども達と共に大掃除を実施。雑巾の使い方、箒の使い方等を指導しながら環境美化等の意識を高めるようにしている。</li> <li>クッキングを通して 調理の方法や危険等を体験しながら楽しむ機会でも コロナ5類移行を起点に 作業中密集しすぎない、換気に留意等行いながら 徐々に以前に近い形で復帰してきている。令和6年度は全面的に回復した形で実施していきたい。</li> <li>毎月1回「作って遊ぼう」の時間を設け、手作りおもちゃに挑戦できる取組を行う。</li> <li>毎日 終わりの会の前に 班活動の一つとして外遊びや館内遊具、設備などの整理整頓、点検を行っている。この活動は生活班とは違って、集団帰宅で同方向に帰る班単位を中心に行っている。</li> </ul>
子ども育成機能	生活体験の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>「エンジョイプロジェクト～児童館まつり」</li> <li>伏見子どもまつり2024（藤森神社にて）</li> <li>遠足等の館外活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年に引き続き「児童館まつり」をメインに 夏季期間の取組をトータルに楽しもうという事で 児童の参画を考えながら取り組みを試み始めた。それぞれのイベントを単発でなく つなぎ合わせながら児童が企画の内容や運営を考えながらできるようにすることが目標。今年度は こちらのイメージが持ち切れていなかったため、トータルな形で運営参画にはならなかったが 各イベントにおいては児童の意見を集約したり、運営補助に参画したり進めることができた。少しづつ継続発展させていきたい。</li> <li>今年度は 遠足において「京都水族館」へ。来館者数が多い中 班活動としてまとまって移動、行動できた。</li> </ul>
	社会性の養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢集団（中高生含）による遊びの経験</li> <li>「みんな遊び」（基本全員参加）による異年齢交流</li> <li>館内及び近隣児童館等の交流、京都大会等のより幅広い児童集団への関わり・参加の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なかよく。たのしく・げんきに」を児童館生活の目標に、異年齢児童が一堂に集り児童館の特性を生かし、縦割りグループによる遊びを進めてきた。毎月1回全体で遊ぶ「みんな遊び」にも取り組んでいる。3年生以上中心の「あそび会議」も定着しており、前回の遊び反省等も含めて 対象等考慮しながら内容を考える上級生が育ってきている。引き続き遊びを通して創意工夫したり、他を思いやる心や互いを尊重し合う気持ちを育てていく。</li> <li>今年度 淀児童館と実施してきたオンライン交流会はあそび交流と将棋交流と2点で行ってきた。「将棋」交流では オンライン対戦も可能だったが 対戦相手への実感がなく、児童にとって交流の実感が少々薄い感じであった。京都市の将棋交流大会に向けて対面で交流をしようとして確認し 交代で双方の児童館に行き来し対面交流を実施。やはり児童にとって「対面」での交流は相手の実感が持てるもので 児童の反応も大きく違った。オンラインを交えながら所要所で対面交流を実施していきたい。令和6年度は あそび交流の面でも「対面」交流を実施する計画で進んでいる。</li> </ul>
	自立の促進と自主性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>入部式・修了式</li> <li>誕生会 年間思い出アルバム</li> <li>伝統的な遊び（けん玉・百人一首・将棋等）への取組及び競技・検定等への挑戦</li> <li>企画・運営への積極的な参画による自主性尊重</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誕生会や季節の行事を通して、児童に自分への振り返りや成長の確認をする機会を設けることによって、自立の意識や自主性を育てる取り組みを行ってきた。コロナ禍では大きな声をだしての祝いが出来なかったが 令和5年度は声だけでなく、コロナ禍で行っていた動作でのお祝いも含めて「お祝いの気持ち」をみんなで表せるように工夫を広げていった。</li> <li>入部式、修了式ではコロナ禍の関係で校庭をお借りしていたが 季節と土地（場所）への愛着をはぐくむという面から「桜花下」での式は最適であると考え 引き続きその形態で実施した。天候との兼ね合いもあるが、今後も基本「桜花下」での式を継続していきたい。</li> <li>コマ回し、けん玉、将棋、百人一首かるたなど伝承遊びを紹介し、自ら進んで活動したり、より自分を高めようとする意識を育てるように取り組んできた。子どもたちの持続力には、個人差があるので多様なものが提供できるように工夫することが課題である。例えば けん玉では 新1年生へのパフォーマンス、イベントでの発表といった節目を作りながら継続できる工夫を行っている。</li> </ul>
子育て支援機能	子育てに必要な情報の提供  子育ての仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童館だより、児童館だより地域版、つくしんぼ通信（乳幼児クラブ版）の発行</li> <li>アプリ「うえぶさくら」を活用してのアンケート、活動参加募集その他の情報提供</li> <li>児童館まつり（エンジョイプロジェクト内）での手伝い、保護者懇談会等を通しての交流</li> <li>H P や掲示板の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月「児童館だより」「地域版」「乳幼児クラブ版」の3種を発行し、取り組みを発信している。保護者、自由来館利用者、地域に向けて 引き続き情報発信を続けていく。</li> <li>学童クラブ保護者との連絡方法として2023年度から アプリ「うえぶさくら」を活用している。保護者の連絡方法としては このアプリを通じて出欠連絡やメッセージのより取りを行っている。またアプリ利用を得意としない保護者に向けても「メッセージカード」を用意する等工夫している。ただアプリの仕組み、コンテンツ等に使いにくい側面もあり 充実に向けて内容改善を申し入れていく。</li> <li>広報として「児童の様子わかる写真（子どもが写っている）」を掲載した方がイメージが付きやすいという点は理解できるが、「児童の写真やネットにアップロードする」という点で その安全性の観点から 現時点では、児童の写真やH P等にアップすることは行っていない。ただ今年度職員の中で検討する中 「取り組みのイメージを持ってもらいやすいように」と、「取り組みに使うもの」「取り組みで作るもの」等取り組みに関連した写真をSNSにアップする中で 参加しやすい状況をつくる方向で次年度は進めている。</li> <li>令和5年度館の門横に大型の掲示板を設置。出入りする利用者には、①目につきやすい ②情報量が増やせる 点を考慮した。また児童館だけでなく 元小学校利用者の出入りにも目が触れやすくなることから 掲示の内容を工夫しながら情報を広げていく。</li> </ul>
	子育てを支えるネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者説明会、保護者懇談会等の開催</li> <li>学校（元小学校含む）との連携</li> <li>基幹子育て支援ステーション活動</li> <li>地域諸団体との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍以前と同様に 保護者懇談会の開催を行う。保護者と直接話ができる数少ない機会でも、児童館での児童の様子を伝える、また日頃の疑問、不安などが相談できる場所としている。保護者会については、保護者に組織む余裕がないとの強い意見から まず児童館の活動の中で「やりたい内容」「やりたい方」から参加してもらい、それを膨らませていく形をとっている。会組む形としての形態は 将来の目標の中になる。</li> <li>基幹ステーション団体との連携はもとより、学区内にこだわらず 向島地域全体を視野に入れた団体間の連携を視野に入れて その方法を模索している。</li> </ul>